

R7年12月放送分
**「東北防衛局における周辺対策事業について（住宅防音工事、移
転措置事業、学校などの防音工事）」**
（日本の防衛Q & A）
（自衛隊百科）

R7.11.26 収録

【パーソナリティー】

本日は、東北防衛局防音対策課の若手職員3名にお越しいただきました。よろしくお願ひします。

【職員3名】

よろしくお願ひします。

【パーソナリティー】

さて、10月に「東北防衛局における周辺対策事業について」放送しました。周辺対策事業とは、自衛隊や米軍が行う訓練や防衛施設が所在することで生じる障害を防止あるいは緩和し、その周辺地域の生活環境の整備に必要な措置を行う事業ということで、障害防止対策事業・民生安定施設助成事業・交付金事業について紹介いただきました。今回は周辺対策事業第2弾としまして、住宅防音工事、移転措置事業、学校などの防音工事についてお話を伺います。

では、自己紹介をお願いします。

【高橋（皐）】

はい、東北防衛局防音対策課防音係の高橋皐太と申します。採用3年目で、今年別の課から異動してきました。出身は、漫画「ハイキュー！！」の舞台として有名な仙台市です。よろしくお願ひします。

【高橋（紅）】

住宅防音係の高橋紅音です。採用4年目になります。出身は山形県山形市で、このラジオ局付近は小さい頃からなじみがある場所です。山形を離れてまだ4年ですが今日は少し懐かしさを感じました。よろしくお願ひします。

【八 鍬】

移転措置係の八 鍬です。山形県村山市の出身で、高校時代はこのラジオ局の前が通学路でした。この課で採用され、2 年目です。よろしくお願ひします。

【パーソナリティー】

それでは、みなさんには今回のテーマ「東北防衛局における周辺対策事業について」第 2 弾のお話をお願ひします。

【八 鍬】

はい、自衛隊や在日米軍は、飛行場や演習場などの防衛施設周辺の方々の暮らしに配慮しながら日々活動を行っていますが、飛行場周辺の航空機騒音や演習場周辺の砲撃音などにより、周辺の方々の生活に影響を与えてしまうことがあります。そこで私たち防音対策課では、その障害を防止、又は軽減するため、防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律に基づき、大きく 3 つの事業に分け業務を行っていません。

【パーソナリティー】

具体的にどのような事業か、まず住宅防音係の高橋紅音さんからお願ひします。

【高橋（紅）】

はい、住宅防音係では、自衛隊の飛行場など騒音が出る防衛施設周辺の住宅に対し、騒音による障害を防止、軽減するために必要な防音工事を行う際に、その工事費用の補助を行っています。具体的な工事内容は、窓に防音用サッシを取り付けたり、壁や天井を防音に適した構造に変えたり、エアコンや換気扇などの空調機器を設置したりと、住宅全体の環境を整えるような形になります。

【パーソナリティー】

思った以上に大がかりな工事ですね。

【高橋（紅）】

はい。普段は事務作業が多いのですが、工事の完了を確認する際に

実際に防音工事を実施したお宅にお伺いする機会があります。その際に「感謝の言葉」をいただいたり、「テレビの音を小さくしても聞こえるようになった」との実感をお聞きしたときは、この仕事をしていて良かったとやりがいを感じます。

【パーソナリティー】

そうした声を聞くと励みになりますね。

次に移転措置係の八鍬さん、お願いします。

【八鍬】

はい。移転措置係では、飛行場等周辺の騒音がより大きな区域の住民に対し、希望があれば住宅などの建物の移転補償と土地の買い入れを行っています。騒音が煩い区域から静かな地域へ家に移転する際に、同程度の建物を建築する費用と建物の解体費用を補償し、建物があつた土地の買い入れを行っています。詳しく知りたい方は東北防衛局のHPに記載していますのでご覧下さい。

【パーソナリティー】

ありがとうございます。それにしても、住民の方の移住に関わるというのは責任重大ですよ。

【八鍬】

採用間もない頃、青森県三沢市の海沿い南北 3km 以上も広がる原っぱを車から眺めていたのですが、「この土地は移転事業により住宅を移転した跡地で、この道路沿いにはかつて約 400 軒もの家があったこと。移転事業が済んでから東日本大震災の際に津波が押し寄せたところもあったこと。」を上司から聞き、事業が住民や地域にもたらす影響を切に感じ、改めて、防衛省の一員として真摯に業務に取り組もうという気持ちになりました。

【パーソナリティー】

では最後に、防音係の高橋阜太さん、お願いします。

【高橋（阜）】

はい、防音係では、航空機騒音の被害が顕著な学校や病院等につい

て、主に自治体が行う防音工事に補助金を出す仕事をしています。具体的には、防音工事の希望のあった施設で騒音状況を調査する、その結果等を精査し補助金の交付を決定する、そして、工事が完了した後は補助事業者から提出のあった書類を審査して補助金を支払うというのが一連の流れです。

【パーソナリティー】

なるほど。高橋さんはこの仕事に取り組まれて約半年が経ちましたが、業務には慣れましたか。

【高橋（阜）】

防音対策課の業務は、航空機等の騒音に関する知識と建築の知識が必要で、当初はそのような知識もなく不安でしたが、日々勉強し少しずつ分かるようになり慣れてきました。ただ、先ほどの騒音状況の調査や書類の審査は、補助金を支払うことに直結するととても重要な業務なので大変緊張します。

【パーソナリティー】

なるほど、新しい分野でのお仕事は大変そうですね。具体的には、こういったところに苦労されましたか。

【高橋（阜）】

先に八鍬さんや紅音さんが説明した住宅防音と移転措置も同様ですが、事業の審査にあたっては、法律、規則等に沿って行わなければなりません。これらはとても細かく定められているので、間違いの無いように気を遣う苦労があります。

【パーソナリティー】

法律などの専門的な知識も必要なのですね。

【高橋（阜）】

はい。私は、防衛省の研修や自習以外に、上司や同僚に積極的に相談することにはしています。八鍬さんはどうしていますか？

【八鍬】

私もよく質問します。業務についてはもちろんですが、新人の頃は特にシステムの使い方からゴミの出し方に至るまで、課内外の方たちに色々教えていただきました。

【パーソナリティー】

何でも聞くことができる良い職場環境ですね。少し職場についてお聞きしたくなりましたが、防音対策課には何人が働いているのでしょうか。

【高橋（皐）】

約20人が働いています。東北防衛局のなかでは人数が多い課です。その分、バラエティに富んでいるので、笑いあり、ときには議論したりと愉快的な職場です。

【高橋（紅）】

年齢層も偏りがありません。特に20代の職員が一番多いので、気兼ねなく仕事できます。女性職員も5人在籍しているので落ち着きます。

【パーソナリティー】

それは意外でした。防衛省ときくと堅いイメージでしたが、今日は若手の方々だけですので、率直に職場の雰囲気や、上司や同僚との関係をお話しいただけませんか。

【八鍬】

はい。防衛局と聞くと堅いイメージもあるかと思いますが、私たちの課の雰囲気はとても和やかです。例えば、課長が家庭菜園で育てた夏野菜を、キンキンに冷えたジョークと共にみんなに分けてくれるなど、上司と部下との関係は風通しがいいと感じます。ちなみに私は頂いたナスを使って麻婆茄子を作り、とてもおいしくいただきました。

紅音さんは職場の魅力について、何がありますか。

【高橋（紅）】

はい、局全体でいうと、まずは若手職員同士の交流の機会が沢山あることです。定期的にフットサルや芋煮会などを企画しています。最

近では局の有志42名が3チームに分かれて仙台リレーマラソンというタスキをつないで42.195キロメートルを走る駅伝大会に出場しました。

【高橋（阜）】

私は今年もこのリレーマラソンに参加しましたが、非常に楽しかったです。我々はコロナウイルスの影響を受けた世代なので、学生の部活動のような青春を感じています。普段同じ職場で働く人たちが協力して同じ目標を目指す、全力を出した後は打ち上げで大いに盛り上がるのは最高です。

【パーソナリティー】

みなさんの話を聞いていると、とても魅力ある職場ということが伝わってきますね。

本日は、東北防衛局における周辺対策事業について、防音対策課の若手職員、高橋阜太さん、高橋紅音さん、八鍬さんにお話をお聞きしました。ありがとうございました。

【職員3名】

ありがとうございました。

【パーソナリティー】

このコーナーでは、よりよい内容にしていくため、ラジオをお聞きの皆さまからご意見・ご感想を募集しております。お聞きのコミュニティ放送局までご連絡ください。